

南極探検と南極観測

今年(2017年)は、我が国の「南極地域観測業開始60周年」に当たりますが、白い氷に覆われた厳しい自然の南極で、人類が南極点に到達したのは1911年で僅か100年余り前のことです。この南極の探検と、1957年の国際地球観測年から始まり今に続く日本の南極観測事業を紹介します。

オーストラリアの探検隊南磁極到達(1909)

オーストラリアのアリステア・マッケイ(Dr. Alistair F. McKay 1878-1914)、エッジワース・ディヴィッド(Sir Tannatt William Edgeworth David 1858-1934)、ダグラス・モーソン(Sir Douglas Mawson 1882-1958)の3人の探検家は、1908年から1909年にかけての南極探検で、1909年1月16日に南磁極に到達、ユニオンジャックの国旗を立てた。

豪領南極地方 1957-1959



豪領南極地方 1961.7.5 (再発行)



1909年1月16日 南磁極でのMcKay, David, Mawsonの3人の探検家
(左の5ペンス切手は発行直前の郵便料金変更のため、額面が加刷された)



オーストラリア南極地域 1961.7.5 南磁極に到達した南極探検隊の切手初日カバー 実通 メルボルン→岡山

英国の探検家スコットが南極点到達(1912)

アムンセン初南極点到達の2ヶ月後、
英国のロバート・ファルコン・スコット
(Robert Falcon Scott 1868-1912)が、
1912年1月4日に南極点へ到達。

英国 1972.2.16



ロバート・ファルコン・スコット

英国南極地域 1987.3.19 ロバート・ファルコン・
スコット南極到達75年記念 初日カバー →



The Cambridge
Stamp Centre
9 Sussex Street
Cambridge CB1 1PA UK

Post Office First Day Cover

British Polar Explorers



BRITISH AND OVERSEAS PHILATELIC AGENCY
1-7 KYOBASHI
CHVO-KU
TOKYO
JAPAN

time 15 minutes

日本の白瀬矗中尉の南極探検(1912)

日本の白瀬矗(しらせ・のぶ1861-1946)中尉を隊長とする27名の南極探検隊は、1910年(明治43年)11月28日、東京の芝浦から「開南丸」で出発し南極を目指した。そして1912年1月28日、南緯80度5分への南進を果たし、一帯を「大和雪原」と命名した。(20世紀デザイン切手の解説書を参照)

日本 2012.1.13



白瀬矗となまはげ

日本 1999.9.22



白瀬矗とオーロラ

日本 1960.11.29



白瀬中尉南極探検50年

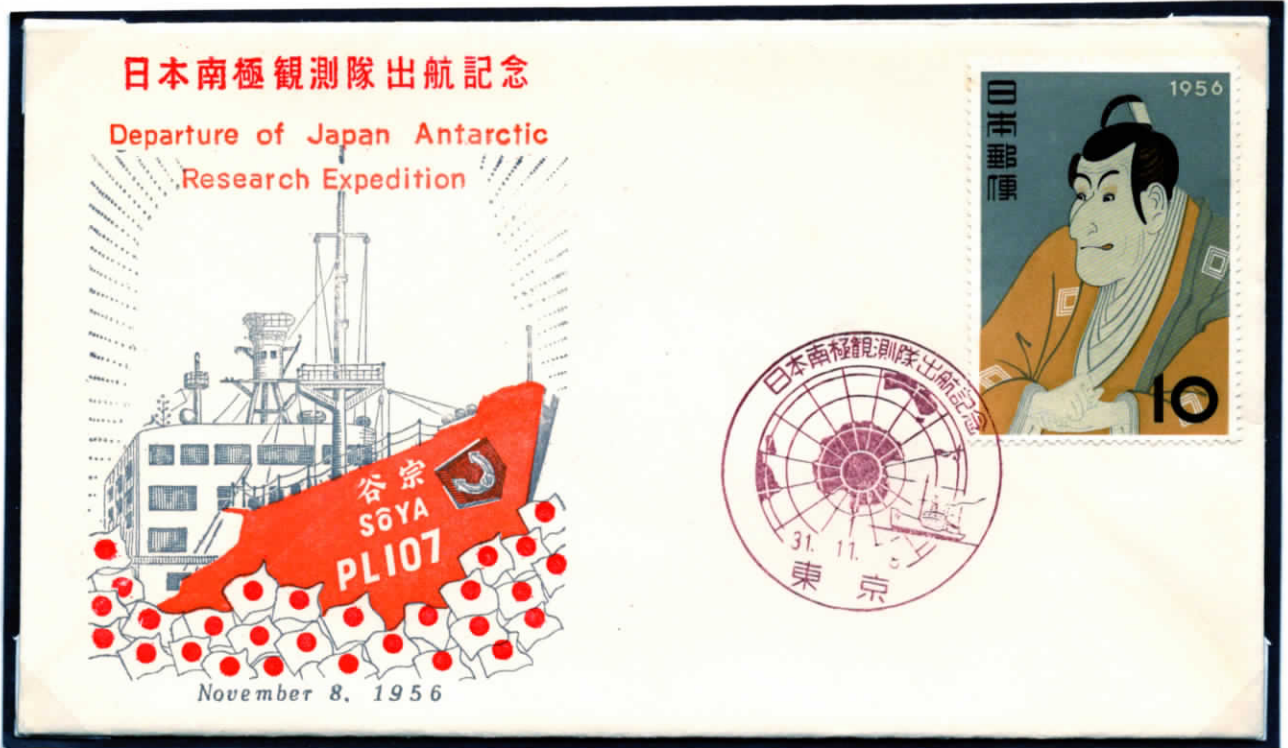
白瀬中尉 (ウキペディアより) →



日本 1960.11.29 白瀬中尉南極探検50年記念初日カバー

第1次南極観測隊出航記念

第1次南極観測隊53名を乗せた南極観測船「宗谷」PL107は、1956年11月8日午前11時、東京晴海埠頭から出航した。



日本 1956.11.8 日本南極観測隊出航記念特別印 押印カバー



日本 1956.11.8 日本南極観測隊出航記念特別印押印カバー(郵便局留置実通)
(使用切手は1949.11.1発行 UPU75年記念小型シート耳紙に加刷、周囲を切断したもの)

第1次南極観測隊上陸記念

第1次南極観測隊が南極に上陸、1957年1月31日のオングル島基地世設定の日に、観測船「宗谷」に初めて郵便局が開設され、マストに郵便旗が掲げられた。また、オングル島基地の越冬建造物入口に設営された宗谷船内郵便局分室の大瀬正美郵政省電波研究所技官が上陸記念スタンプを押印した。

日本 1956.12.20 年賀切手



この切手の図柄が南極と関係ある鯨であったので、「宗谷」が出航後郵政省の特別の計らいにより、これを寄港地の南アフリカのケープタウンまで空輸して、南極上陸記念の消印用として利用された。

郵便旗を掲げた宗谷と、宗谷郵便局昭和基地分局での押印風景の写真を掲載した、記念カバー用説明カード→



写真上、昭和三十一年一月三十一日、日本南極観測隊のオングル島基地設定の日、「観測船宗谷」に始めて郵便局が開設されマストに郵便旗が掲げられた時の景観。

The postage stamps on the cover are the 1957 New Year special postage stamps issued on December 20, 1956, after the departure of the Soya, the Japan expedition steamer.

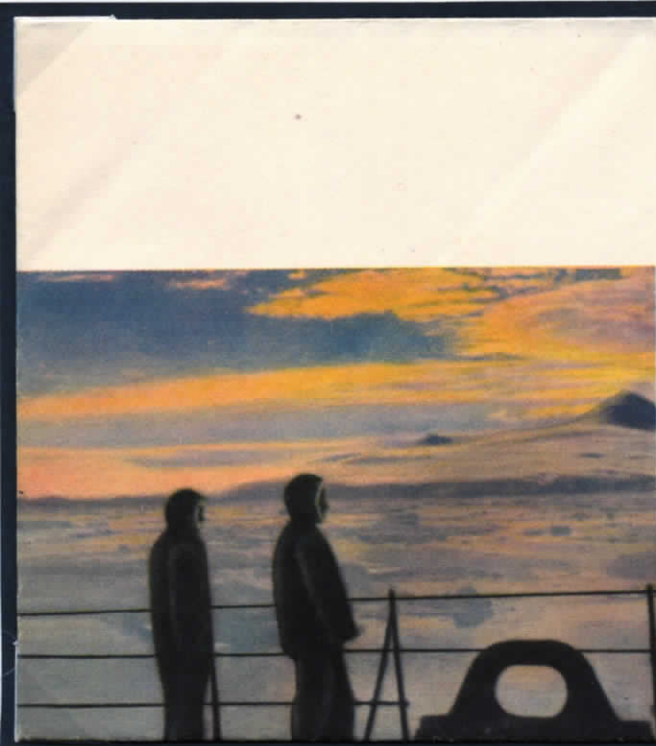
The stamps were carried by plane to Cape Town for transshipment into the Soya there.

The stamp on the left is the genuine one used by the Japan Antarctic Expedition.

The postmark depicting penguins was stamped by the Soya Post Office in the Antarctic.

日本南極観測隊上陸記念

十二月二十日発行の年賀切手は同たので、「宗谷」が内地出航後郵政省ケープタウンまで空輸し「宗谷」印用とした。カバーの封筒は白紙積込まれた。なお、このカードは布に当り郵便文化部で作成した。



日本南極観測隊上陸記念
The Landing of the South-polar
Observation Party from Japan

日本 1957.1.30 日本南極観測隊上陸記念特別押印カバー

第1次南極越冬隊長・西堀榮三郎

厳しい南極で、年間を通じて南極地域を観測する第1次越冬隊は、西堀榮三郎隊長以下11人であった。



西堀榮三郎博士 1982年 N.Y.にて



中央が作間敏夫通信担当越冬隊員

2007年「西堀榮三郎記念探検の殿堂」での企画展にて



南極観測隊絵はがき

日本科学技術連盟寄贈2種の内の1種。西堀榮三郎博士逝去後、遺族によって「西堀榮三郎探検の殿堂」に寄贈された遺品に含まれていたものを、2007年に開かれた企画展で、参加者に配布された。



国際地球観測年記念・第2次南極地域観測記念



日本 1957.7.1 国際地球観測年記念初日カバー

第2次越冬隊は悪天候のため昭和基地への上陸を断念せざるを得ず、滞在中であった第1次越冬隊は小型飛行機で宗谷へ撤退した。このとき第2次越冬隊と対面するはずの樺太犬15頭が鎖に繋がれたまま基地に取り残された。



日本 1958.1.30 第2次南極地域観測記念 宗谷・昭和基地 記念消印押印記念カバー

第3次・第4次南極地域観測記念

第3次越冬隊は1959年1月に、前年に南極に取り残された樺太犬15頭のうち、兄弟犬「タロ」と「ジロ」が生存しているのを発見、再開した。他の13頭は行方不明または鎖でつながれたまま餓死していた。



日本 1959.1.30 第3次南極地域観測記念 宗谷 記念消印押印記念カバー



日本 1960.1.30 第4次南極地域観測記念 宗谷 記念消印押印記念カバー

南極地域観測再開記念・第7次観測隊

1962年以来中断されていた南極地域観測は、1965年から再開されることになり、新たに31億円を投じて建造された新鋭南極観測船「ふじ」AGB5001で、第7次観測隊29人が南極に向けて出発した。「ふじ」は、大型ヘリコプター3機を備え、輸送の効率化をはかり、厚さ6mの砕氷能力を持つ優秀船であった。



日本 1965.11.20 南極地域観測再開記念初日カバー



日本 1965.11.20 カシエに第7次観測隊の記念印を押した 南極地域観測再開記念初日カバー

南極条約 10 周年記念・第 14 次観測隊

南極条約は南極の平和的利用を決めた条約で、1961年に英国、米国、ソ連、フランス、ベルギー、ノルウェー、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、チリ、南アフリカ、日本の12ヶ国で交わされた。領土権を主張しないこと、核実験や軍事施設の設置など軍事目的に使用しないことなどを決めている。

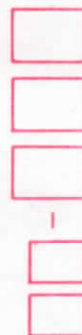


南極条約 10 周年
Antarctic Treaty

First Day of Issue June 23, 1971



日本 1971.6.23 南極条約10周年記念初日カバー



日本 1973.1.1 第14次南極地域観測記念カバー (白封に昭和基地の風景印)

南極観測船「しらせ」就航記念

南極観測船「しらせ」は、老朽化した「ふじ」に代わる新南極観測船として建造が進められ、1982年11月に完成、1983年11月14日、第25次観測隊を乗せ南極初航海に就航した。(郵便切手発行案内)

南極観測船「しらせ」就航記念郵便切手

南極観測船「しらせ」就航を記念して昭和58年11月14日に60円郵便切手を発行した。

「しらせ」は、老朽化した現「ふじ」に代わる新南極観測船として建造が進められ、昭和57年11月完成、58年11月14日、第25次観測隊を乗せ南極初航海に就航した。

「しらせ」は「ふじ」に比べ砕氷能力、航続能力等大幅な性能アップが図られており、これの就航は今後の観測事業の飛躍的發展を可能にする出来事である。

近時、種々の側面から南極についての国際的関心が高まってきており、我が国においても諸外国に立ち遅れることなく、国民的合意に基づく南極政策を確立していく必要があり、南極観測事業のこれまでの実績、成果を再認識するとともに、国民的関心を一層高め、さらに国際的にアピールしていく必要がある。

切手の意匠は、南極観測船「しらせ」の到着を喜ぶ迎えるペンギンとオーロラを描いたものである。

MAIDEN VOYAGE OF ANTARCTIC OBSERVATION SHIP "SHIRASE"

A 60 yen postage stamp commemorating the maiden voyage of the antarctic observation ship "Shirase" was issued on November 14, 1983.

The construction of the antarctic observation ship "Shirase" was commissioned to replace the ageing present vessel "Fuji", and was completed in November, 1982. With the 25th observation team aboard, the ship departed on its maiden voyage to the Antarctic on the 14th of November, 1983.

"Shirase" was designed to have a higher icebreaking performance and to be capable of staying at sea longer than her predecessor, the "Fuji", and this maiden voyage will make a great advances in for observation activities possible in the future.

Recently international interest in the Antarctic has been

heightened
recognition
national
results
and
T
green



発行日 昭和58年11月14日
種類 60円郵便切手
意匠 南極観測船「しらせ」とオーロラとペンギン



南極地域観測事業開始 50 周年記念

南極地域観測事業開始50周年記念(シール式)

〈郵便切手の内容〉

1956年11月8日、第1次南極観測隊を乗せた観測船「^{まうろく}宗谷」が東京・晴海ふ頭を出航し、翌年1月29日に昭和基地を開設しました。

この50年間、日本の南極観測は近代的観測を継続して行い、国際社会において大きな役割を果たすとともに、さまざまな成果を挙げてきました。オゾンホールが発見や、南北の両極でのオーロラの同時観測、惑星科学の基礎となる南極隕石の大量の発見などは、その代表的なものです。

南極観測は、地球温暖化や海面上昇をはじめとする地球規模での環境変動の解明においても重要な役割を果たしています。世界に先駆けたオゾンホールが発見は、昭和基地での長年にわたるオゾン観測から生まれました。また、南極の氷から過去の二酸化炭素の濃度と気温の変遷が明らかにされています。

南極は人間の活動圏から遠く離れていますが、南極観測は我々の生活と深く関わっています。南極は未知の地球環境の変遷を知り、未来を予測するうえで重要な地域であり、今後南極観測の継続の重要性、意義はさらに高まっていくものと思われます。

【日本南極観測50周年記念「ふしぎ大陸南極展2006」カタログより抜粋】

1. 切手シートは、2種類発行！（切手裏面がのり式のもの、シール式のもの）
2. シール式切手は、ポストカード付！！



日本 2007.1.23 南極地域観測事業開始50周年記念シール式シート